

令和7年度 第3回 伊賀市多文化共生推進プラン委員会 議事概要

日 時：令和8年3月12日(木) 午後1時30分～3時30分

場 所：伊賀市役所本庁4階 庁議室

出席者：オチャンテ委員、和田委員、井上委員、西岡委員、里中委員、前澤委員、釜井委員、瀬戸口委員、上出委員、矢口委員、船見委員、山本委員、トン委員、柳委員、櫻委員、中野委員、桃地委員

内 容：

1. あいさつ

2. 委員長、副委員長の選任について

3. 議事

(1) 多文化共生推進プラン令和7年度事業進捗状況について

事務局 (説明)

委員 (取組説明)

委員長 ありがとうございます。

では、その他に追加の説明や何かご意見やご質問などありませんか。

委員 伊賀市への相談の件数はどれくらいか。例年同様の感じかどうかだけ、感覚でいいので教えてほしい。

事務局 伊賀市での相談件数ということで、大体年間、今 6000 件ぐらいの相談で、主に生活に関する相談や市の制度とかそういったところで一元化窓口に来ていただいています。ちょっと今細かい数値の件数を持っていないですけども大体、6000 件ぐらいかなというふうに、思っております。

委員 できたら数だけではなくて、言語であるとか、内容であるとかで、やっぱり多い相談困り事が多いところに、やっぱり力をみんなで注ぎたいなあとあって、その裏にあるものもあると思うんですけど、その見えるところで、またぜひそれも、次の会議があるときでも、聞けたら嬉しいです。

事務局 先般そういうご意見をいただいて、一定まとめた資料がございます。

今日はちょっとご用意してないんですけども、また資料として出させていたいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

委員長 はい。

参考になる資料にはなっていくと思うので、また、お願いできればと思います。では他に大丈夫でしょうか。

他にないようでしたら、続きまして、(2) 多文化共生のまちづくりアンケート調査の結果について。

まず事務局からも説明をお願いします。

(2) 多文化共生のまちづくりアンケート調査の結果について

事務局 (説明)

委員長 事務局からアンケートの結果の説明がありました。

これについてご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員 この資料の中で、日本人側から見てあんまり交流が望んでないっていう声が多かったかなと思います。まず、外国人の方が、日本語を学ぶ時間がないっておっしゃってて、市に求めることとして、日本語の勉強の機会を作って欲しいと出て、学ぶ時間はないの個人の問題なので市でできることには限界があるかなっていうふうに感じました。

そういう、日本語を学ぶ時間がないって言う個人と関わりたいていう日本人はそれは少なくなるだろうなっていうのが率直な私の意見でした。

なのでエクセディさんが(日本語学習を)導入してるって話がありましたけど、会社でもうちょっと日本語を学ぶ機会っていうのをトップダウンという形でもっと学びなさいって言われたら、その外国人たちもいくら時間がなくても、会社に言われたらやらな、って思っちゃうかなと思っていて、もちろんその会社で機会を提供することの、コスト的な部分とかはあると思うんですけど。でも結果的に学んでもらったほうがトラブルも減って、費用対効果は上がるんじゃないかなっていうふうに考えさせていただきました。

委員長 ありがとうございます。

とても大切なコメントです。

企業に働きかけるっていうことだったと思います。

委員 さっきのアンケートの説明ありがとうございました。

アンケートの内容によって、わかったのは、日本人側は割と交流の願望はあります。そして、一番望んでるのは、法律とルールの案内ですね。

それも外国人として日本で16年生きてきた私としては、同じような思いです。日本に来たときに、法律は全く国によって大分変わってくるので、違法なことを自分はやったことないですが、周りの方とか知らない間に、違法なこと、ルール違反なことをやってしまって、バッシングを受ける受けないにかかわらず社会的に影響、マイナス的に働くので、そこはちゃんと個人責任ですけど、わかってからやるかやらないかを判断した方が、外国人としても生きやすいなと思います。

そして外国人の先と同じ、質問の外国人側の問9ですけど、勉強する時間がないっていう意見が多かったと思います。

私の仕事とも関係するんですけど特定1号で、工場働きの方が多く見られます。法律に登録支援機関という機関に支援してもらいながら働くのは決められてて、登録支援機関には地域企業から毎月、1万、2万円ほどの支援料金を払っているのが現状ですね。

私が見た限りでいうと、この登録支援機関は、お金だけもらって、支援はそんなにやってないです。

そこにもし市から働きかけて、ちゃんと支援してください。日本語も、お金もらってるんやから、月1回でも教えてあげてください、と。オンラインラーニングとかでやってもらえたら、せつかく企業も払ってるし法律も作られてるから、その登録支援機関にもうちちょっと負担っていうか、その役割を果たしてもらったらどうかなと思います。

外国人側になると、さっきの取組みも聞いて、外国人としてはとってもありがたいと思います。その働きのおかげで、私たちが平穩に、伊賀で暮らせてるなと改めて感じます。外国人側も、もちろん、努力しないといけないと思うんです。

第1としては先ほどの法律とルールを案内されたら、ちゃんと外国人がそれを認めて、自分の生活で実行するのは必要やと思います。

第2の教育に関してうちにも2人を育てています。

その2人は、ちっちゃい頃から、あなたは日本で暮らしてて、国籍も日本ですけど、中国のルーツ持つってよっていうことを1歳からちゃんと伝えてます。理由としては、外国にルーツ持つって子供が自分のルーツに対して、マイナス的な思いを持つてる方がたくさんいらっしゃいます。

そのマイナスの思いと、周りの興味がぶつかってしまうとどうなるかっていうと、差別に感じちゃうんですよ。

差別じゃないのに、2歳とか3歳でも、何人？って、聞かれたら、その子がマイナス的な思い持つてしまうと、差別されてるかなって(感じてしまう)。お母さんが違う顔してたら、本人子供たちが何かストレス感じちゃうとか。日本語しゃべれない親御さんがいたら、子供さんが、ちょっとお母さんお父さんにあんまりしゃべらないでとか言っちゃうんですよ。

だから外国人側も、自分の、次世代に日本で生きている、上に、自分のルーツにプラス的な印象を持つことがすごい大事だなと思います。

委員長 貴重なコメントありがとうございます。

問題を事前に防ぐことっていうのが大切だと思うので、そういう意味ではね、日本に来たら、やっぱり、法律的なものとかね決まり事とかを、それを改めて、重要、大事だっっていうことを感じます。あともう1つは、子供のアイデンティティの確立のために、自尊心が低い子供たちが見られてるので、そこもね、子供たちの自信をもって日本で育っていくためのことは何ができるのかっていうことも併せて(考えていかないと)。どこかにありましたね、保育園とかで差別とか。やっぱり小さい子供って、大人になってくるとこれを言ったらいけないとかわかるけど、小さい子供とかはそれはないので、ぼろっと言ってしまったことが差別に繋がっていくので、やっぱり小さい段階からの人権教育ってい

うのも併せて、大事なものではないかなと、私もコメント見ながら終わりました。

他にどうでしょうか。

委員 私は今、町の今年度が組長を当たって、去年の12月から、町で民生委員もさせていただいて、今まで外国籍ルーツの人たちのところを主に見てたんですけども、最近町の中の日本人との交流も多くなってきてます。

その中で感じたのが、やはり外国籍の人たちのことを、日本人の人はわかっていないのに、誤解をしている。

だから外国人のアンケートにもありましたけれども、外国人＝ルールを守らないに悪いことする人というのが、何かあったわけでもないのに思っているというのを感じています。

というのは、近々私の町に、どうもペルーの人が引っ越してくる。

という話が出てまして、私がスペイン語ができるっていうのも知っているので、入ってきたら町のルールとかスペイン語で説明しにきてねえっていうふうなのを聞いたので、「いいですよ」ということで、もう時間を決めてあるんですけども。ある方が自治会長に、何でルールも守らへん外国人を町に入れたんやっていうのを言ってんねんっていうのを聞いたんですよ。

「えっ」と思って、それが良くはないですけども、知らんっていうことなんやろうなと。

どこか町の行事で会うことがあったら、その人じゃなくても、全体に、「いやいや違いますよ」「外国人はそうじゃないですよ」っていうのは、言おうかなあとは思っているんですけども。

でもやっぱり交流がないイコール知らない。だから、世間が言う悪いイメージしかないから、あの人たちは悪い人だ、きっとルールは守らない。ゴミはちゃんと出していない。

というふうに思い込んでるな、というのと、外国人とは、私たちは日本人は言葉が通じない。

日本語で話したってわかってくれないと思っているなど。

私が、いろんな外国人の人と町の中にもいろいろな外国人がいるんで、話するとよく「何か国語しゃべれるの？」って。いやいや私、スペイン語と日本語だけです、ていう感じなんですけども。私が外国の人と日本語で話していても、それは私とその国の言葉で話してると思い込まれている。いやいや日本語なんですけどっていう感じで。

だから私の町には今のところペルー人の方はいらっしやらないので、スペイン語で話す機会がないんです。皆さん誤解している。

あともう1つは、町の人がいろんなことを、私たちが外国人のことに対して当たり前のように知っていることを知らない。

ていうのは、自治会長さんが、この3月に皆さん日本人はごみの分別表を配られますよね。外国人の所の分はないんですよ。

各国語に作ってあるんだけど、日本語しかないんです。町に配られるのは、何でかっていうと、外国語の分は直送なんです。時期もずれて、4月頃に、登録してある住所に直送してるんですよ。うん。

それを知らないから、自治会長さんが私に、「これ、日本語しかないけど、外国人はどうしたらいいんや」って。「いやいや、外国人の人たちには、住民登録してある住所に直送なんですよ」って言ったら、「そうなん？」という感じだったので。それは私は知っていたけれども、町の人はそのなん知らんから、外国人用の、全部の言葉じゃないですけども翻訳してあるのがあることさえも知らなくて。日本語のでは読めへんやろし、ごみの分別表を渡してへんから、ごみはちゃんと出さへんわなみたいなことになるんちゃうかなと思って。5か国語のごみの分別表があるから、私が市からそれぞれ2枚ずつぐらいもらってくるので、もしも新しく入ってきたりとかしたら、それを配りましょうよというのを私が言ったことで多分ちょっと安心されたかなあとは思ってますけれども。

うん。

そういう情報も、普通、知らない、知ってないんやなあと思って。私が当たり前のように知ってることを、町の人が知らないっていうことがいっぱいあるので、だから誤解も生まれるのかなあっていうのを、最近町の中に入っているいろいろ調査しております。

知らないことがいっぱい出てきて、はい。

面白いです。

以上です。

委員長 そうですね。やっぱりわからないことがあるから。

あとはやっぱり他のね、外国人が来ると犯罪が増えるとかですね。

正確な数字ではそうでもないんですけど、ただそれがやっぱりわからない。

誤解を招く。やっぱり、そのためには交流が必要なのかなって。

すでにやっぱり伊賀市がいろんな取り組みが行われているのでそれをもっと地域にですね、こんなことやってるよって情報も提供していかないといけないのかな。

すいません。他どうでしょうか、皆さん。

いかがでしょうか。

委員 集計の最初のところで、有効回答率って出ているんだけど、これでいいのかなと思って。配ったのは1500、1000、100ってことですよ。

回答はWebも入ってますよね。なので、これを有効回答数って言っているのかってちょっと思っていて。多分これだと1500通送って259通返ってきたっていうふうに理解するんですけど。そうすると何か外国の方の回答率がいいんです。

日本人はこのぐらいかもしれないけど、外国の人。

1000 通送ったら 166 返ってくるのは結構かなりが多分 Web が多いですよ。

あと、Web が基本か、Web が基本だけでも送ってないけど回答した人がいるから、ちょっとそれ書き方だけの問題だと思うんですけど。

せめて配布数のところに、印刷物配布数って書くとか、注釈を入れたほうがいいかなと思う。後々誤解を招きやすいかなと思います。

いかがでしょうか。

はい。

わかりました。

事務局 それについては、丁寧に、記述を補足として追記させていただきたいと思います。

委員 あと 1 つ質問なんですけど、外国の人に対するいろんな団体知ってますか、というところ。例えば、知ってますが 8.4% で、次のページの利用したことがありますかだと、28.4% となっている。利用したことあるけど知らないっていうのがちょっと、なんでかなと思ったんですね。

以前もこれが何か、この名前だけだとわからない。

伊賀日本語の会と多文化伊賀の伝丸っていう名前だけではわからないので、あそこにあるやつみたいなそんなことを変えていかないからみたいな、多分わかりましたね。

うん。

だからなんで、なぜこういうふうにやったら、今回のアンケートも知ってるけど使ったことがない。

人の方が少ないと思うんですけど、知らないけど、わかったことがある人が多い。

知ってる。

ちょっとこれ、Web がおかしいのが知ってる日等が入ってる人の中でやることとかわかりました。

ありがとうございます。

すいません。

ちょっと饗庭が n がある程度 166 になってたかもしれないです言うことで、わかりました。

ありがとうございます。

これだったらいいよね。

個数が違うということですね。

事務局 すみません、母数が間違っています。使ったことがあるかの質問は、n=166 ではなくて、n=81 です。すみません。

(3) 外国人住民ワークショップの結果について (事務局)

事務局 (説明)

委員長 ありがとうございますそれでは事務局から個人へ流入ワークショップの説明がありました。

これについて質問、ご意見ありましたらお願いします。

委員 私も外国人ではないですが、このワークショップのときに行かせていただきました。

本当にいろんな、国籍もですし、いろんな立場の人が来てくださって、うまく集めてくれたなあと思ったのがまず感想です。

その中からでも、こういう機会があったらまた呼んでねえっていう声を聞きました。

やはりボランティアをしたいだったりとか、自治会活動に積極的に参加するであったりとか、何かやりたいっていう人は実はいっぱいいて、意見を言いたいっていう人がいっぱいいるんだなあと。今回こういう機会があったので、意見が言えて、いろんなことが発信できたっていうのも多分よかったんじゃないかなあとも思うので、どんどんどんどん外国人の人たちが、やっぱりその街であったり、自分がここにいて、自分がこんなことできるんやっていうことを知りたいっていうかやってみたいっていう人が多いので、実はその機会を奪っているというかチャンスを与えてないのは、日本人側じゃないかなあ。声をかけなかったりとか、だから来てもらえへんやろうと思ったりとか、言葉わからへんから無理やろうと思ったりとか、そういうのがいっぱいあるんじゃないかなあと思いました。

実は今回このグループで話してくれている中で、私の町の自治会の近所の人がいたんです。なので、今度から町のイベントに私は誘うぞ、と思っております。はい。以上です。

委員長 ありがとうございます。

他、ありますでしょうか。

委員 私もこの日グループワークに参加させてもらって 1 グループで参加をしました。参加人数がすごく多くて、私はなんかこんなに外国人がいたんだっていうのを知るいい機会だったんですけど、世代が親世代が多かったので、何かこれから伊賀市を担っていく青年世代というか、20代ぐらい、10代後半とか20代とかももうちょっと参加してくれてたら、もうちょっといろんな視点で意見が出たんじゃないかなと思っております。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

貴重な意見ですよね。

その呼びかけをね、どのような形で行ったかにもよるんですけど、もう少しやっぱり若い、日本語ができるですね若者が増えているので、彼ら日本に、伊賀

市にね、これから住んでいこう若者たちへの呼びかけ働きかけを、そこも意識していかないといけないかな。

他いかがでしょうか。

大丈夫でしょうか。

(4) 伊賀市多文化共生推進プラン（第2期）の施策の展開方向について

事務局 （説明）

委員長 ありがとうございます。それではただいまの説明について、ご意見、ご質問などありましたらお願いします。

委員 本日のいろんな情報からまとめていただいた課題で、わかりやすくまとめていただいております。

1点だけちょっと私の冒頭の方にも申し上げましたけど、今日もお越しいただいている方とか、或いはその言語ですよ。

あるんですけど、例えばタイ、タイ語であるとか、ミャンマー語であるとか、インドネシア語であるとか、その辺は情報が伊賀市はないんですね。

なので本当に基本的なことを知らない。

確定申告ということを知らない人とかも結構いらっしゃるんです。

例えばブラジルの方とか他の言語だと何か情報誌を見ると何か確定申告っていうのは書いてあるよね。なんか税金のなんか還付がある制度があるんだっていうことが、何となくは分かる。ちゃんと知らなくても。でもそういうことがあることすら知らない。そういう、希少言語とは言いますが、一定数いらっしゃるし、1人だけっていうところはなかなか対応難しいと思うんですけど、やっぱりやさしい日本語読むっていうのは、読めれば読めるけどなんか、頑張れば読めれば読めるけれども、なかなか情報誌のやさしい日本語はあるのは大事なことですけど。それを読める、例えば日本に30年ぐらい住んでるけど、日本語は読み書きできない。

日常会話は、仕事で、「残業ある」「大丈夫。今日OK」みたいなのはできるけど、やっぱり確定申告の情報をやさしい日本語で読むっていうのは非常に難しいので、その辺も課題の1つにちょっとそれで入れていただくとお思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

どんどん多様化、言語がまた増えているので、それについて、せめ項目だけでも、こんなことがあるんだよねと。そして窓口に来て、もう少しやさしい日本語で対応していくというような形も考えてもいいのではないかなと思いました。

その他、いかがでしょうか。

委員 今に関連して、日本語の学習者さんを見ていると、話せるけれどもひらがなカタカナ漢字読めない人が多いですね。

何年日本にいて聞いて、30年って言って、ひらがなカタカナわからない、という人が多いです。

その人たちはは、翻訳物がある国の人たちなんですけれども、ひらがなカタカナ漢字が読めてもまず意味がわからないっていうのもあると思うので、その辺考えたらこう、やさしい日本語の音声の何かがあれば、いいのかな。

YouTubeとか、音声でわかるような、そんなのがあったらいいのかなってふと今、思いました。はい。以上です。

委員長 確かに読み書きができないけれど、結構お話とかでよく理解はできる外国人住民がいるので、何かそういう大事な、特別なニュースとか、事故とかだと、音声で例えばね、多分、フェイスブックかなんかに流すような短い動画とかも、簡単に作成はできるので。また字幕を作ることもね、簡単にできるようになってきてるのでそういうことも考えてもいいんじゃないかなと。

はい。

他いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

(5) 専門部会の設置について

事務局 (説明)

委員長 事務局からの説明に対し、質問やご意見がありますでしょうか。

大丈夫でしょうか。

それではですね、委員の皆様には専門部会で、それぞれのテーマについて、本日説明のあったアンケートやワークショップなどを踏まえてですね、ご協議いただきたいと思いますので、お忙しい中とは存じますがどうぞよろしくお願いいたします。

4. その他

委員長 何か委員のみなさまからお伝えしたいことはございますでしょうか。

事務局はいかがでしょう。

事務局 (次回委員会の日程調整案内)